

インフラシステム海外展開検討会 取りまとめ（概要）

1. はじめに

- **インフラシステム海外展開を巡る環境は、大きく変化。**
（顧客ニーズの変化、ビジネスモデルの変化、プレーヤーの変化など）
- **「令和におけるインフラシステム海外展開」はどうあるべきか議論。**（なお、インフラシステム海外展開に係る論点を網羅的に議論したものでなく、留意が必要。）

2. 「変革」の必要性

- これまでのアプローチの延長では、厳しくなっている中、**変革が求められる時代。**
- 海外市場への展開を想定した**経営戦略の転換や、企業行動の変容**が求められる。また、**デジタルをビジネスモデルに組み込んでいくことが業種横断的に求められる。****デジタルによる課題解決だけでなく価値創造も重要。**
- 成長エンジンとしての「デジタル」、「グリーン」への対応はデフォルトとなりつつある。**デジタル、グリーンはインフラ海外展開のドライバーにもなり得る。**
- 変革のスピードに応じた、**P o Cや政策連携なども重要。**

3. パートナーとの「共創」

- ホスト国・地域の**パートナー企業等とも連携**することで、現地の雇用創出・経済発展、技術・知見の共有を通じて、**サステナブルな関係構築が重要。**
- **スタートアップの技術等をインフラに組み入れる**ことで、新たな価値・イノベーションを。
- 社会課題を適切に把握・提案し、共に成長していく観点から、**官民連携でのアプローチが重要。**特に、市場形成過程にある国や分野においては、政府の役割が特に大きい。
- 複合的な社会課題解決ニーズに対する対応において、**規制作りとマーケット創出が一体的になされる局面があることを踏まえた対応**が求められる。

4. 「エコシステム」の形成

- **総合提案力が求められる中**、事業会社単体でなく、現地社会や産業、周辺の企業などの**「エコシステム」全体で新たな価値を生み出すこと**も求められている。
- エコシステム形成に寄与するための**企業変革や環境整備**も重要。
- バリューチェーンの中で、**全体感を持って事業を構築し提案していく能力**を高めていく必要。**全体を俯瞰できるリーダーとなる企業を生み出していくこと**も重要と考えられる。

5. 「質高インフラ」の深化

- シーズン志向な形から、相手国との対話を通じ、実情に応じた**提案型の支援を強化すべき。****経済性のみでなく付加価値向上の視点が重要**で、両者のバランスのとれた「質の高さ」が求められる。
- **バリューチェーンの中でのルールメイキング**に、産官学で取り組む必要。
- 技術の差については、相手側が認めてこそであることを認識すべき。質高インフラの様々な価値を科学的に示すなど、**見える化を進めることは重要である。****社会的価値・環境価値等のわかりやすさ**の発信も重要。
- **我が国に対する裨益をグローバル化した企業活動**や当該企業の**属するエコシステムの特徴を踏まえて考える必要**がある。
- 防災など、**我が国が先駆けて取り組んでいる分野**について、強みを生かし、海外展開につなげていくことが重要。

6. 「人」への投資

- 我が国は人口減少社会を迎え、産業もソフト化する中で、**「人」などのソフト面に対する支援にさらなる工夫が必要。**例えば、ガバナンス構築、制度・ルールづくりなどのソフト面での協力により注力すべき。
- 技術協力についても、G to Gから、**企業とも対話をしながら広げていくことが重要。**
- 現地人材の積極登用・活用が重要。国内で若手のインフラ専門家が少なくなっており、**現地人材の登用と国内人材の育成の両輪**を進めることが必要。

7. 環境変化に対応した「公的ファイナンス」

- D XやG Xは、市場の変化とそれに基づくビジネスモデルの変化が激しい領域であり、それに応じて**公的ファイナンスの機動性・柔軟性を高めることが重要。**
- D XやG Xの**海外でのトライアルを支援する仕組み**も重要。
- 脱炭素案件等での**バンカビリティの向上**に資する施策や、P P P案件等での**上流段階における案件組成支援**も重要。
- インパクト投資や、ESG投資のような**社会課題解決や社会的インパクトの創出**を念頭に、**においた新たな動きを、インフラ投資にも組み入れていくことが重要。**

8. 今後の検討

- 今回の議論は、短期間で限られたメンバーで行われたことについて、留意が必要。
- **Beyond 2025を見据えた中長期的な在り方**も今後意識すべき。